

令和2年度 栃木県立上三川高等学校学校評価表

教育目標	心身両面にわたって鍛え、愛情あふれる豊かな人間性と確かな知識の獲得に勉めるとともに、新たな知恵の創造に励むことのできる人間を育成する。		
本年度の重点目標	(1) 生徒の主体的な学習を促す指導及び組織的な進路指導 (2) 自他の健康の保持増進に向けた実践的指導 (3) 部活動の活性化と地域連携の推進		
評価項目	具体的な取り組み	アンケート	評価
ア 上高精神の「日常化」	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃の服装頭髪指導を通じて「きちんとした服装」の実現を図る。 ・朝の昇降口立哨指導や移動教室の迅速化を通じ、時間厳守の徹底を図る。 	生徒⑩ 保護者⑦ 教職員⑪	B
イ 資格取得への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科で事前指導などの受検者増に結びつくような取り組みを行う。 	生徒① 保護者① 教職員①	A
ウ 学習指導に関する取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の学習の内容を再確認し、各担当者が計画的に実施する。 ・生徒が朝学にしっかり取り組めるよう、担任（副担任）は10分間の時間確保に努める。 	生徒②③④ 保護者② 教職員②③④⑥	B
エ 進路指導に関する取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・進路部と各学年が連携し、進路情報の精選と提供を行う。 	生徒⑤ 保護者③ 教職員⑥	B
オ 健康指導に関する取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・係、担任、養護教諭等職員が連携し、生徒の健康観察と指導、啓発を行う。 ・新型コロナウイルス感染症予防に努める。 	生徒⑥⑫ 保護者④⑪ 教職員⑦⑭	A
カ 部活動の奨励	<ul style="list-style-type: none"> ・顧問間の横の連携を密にする。 ・学校再開後に「部活動紹介」「部活動見学 Day」を実施する。 ・感染症対策を徹底したうえでの学校祭を計画し、文化部を中心とした発表の場を設ける。 	生徒⑧ 保護者⑥ 教職員⑨	B
キ 生徒への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・担任、係ほか職員が、面談週間の適切な実施と教育相談アンケートの活用、生徒観察、生徒から話を聞くことに取り組み、情報共有し組織的対応をはかる。 	生徒⑦	A
ク 生徒会委員会活動の自主的運営	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会の日々の活動内容や行事等での役割を明確にする。 ・達成感や自己肯定感をもちさせることで、活動の自主的運営につなげる。 	生徒⑨ 教職員⑩	A
ケ P T A や関係機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・理事会、通知を通して、P T A 役員や保護者との連絡を密にとる。 	保護者⑤⑧⑨ 教職員⑧⑫	A
コ いじめ対策への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・職員がそれぞれの立場で生徒観察と生徒、保護者の声を聞き、早期発見に努める。 ・情報を共有し、組織的に対応できる体制を作り、適切な支援と指導に努める。 	生徒⑪ 保護者⑩ 教職員⑮	B
評価について	A…「十分に達成されている」 B…「だいたい達成されている」 C…「不十分な面がある」 D…「達成されていない」		
反省・今後の改善方策 <全体として> 今年度は第1学期始業直後から2か月近くに及ぶ休業となる異例の事態となり、学習の保障や感染症対策に教職員は対応を迫られた。このような状況下で行われた学校評価アンケートは、全体的に肯定的な回答が昨年度よりも増加する結果となった。これは休業への反動としての学校再開の期待感や再開後の充足感が後押ししたものではないかと推測されるため、単純に比較することはできない。その中で、新型コロナ対応に対する肯定的回答が生徒・保護者ともに9割を超えたことは、学校全体としての取り組みに成果があったものと捉えたい。今後も引き続き感染症予防に努める。 <進路指導・学習指導について> 各教科（国・数・英）で資格取得（検定試験）の指導にこれまで以上に力を入れたこともあり、アンケートの結果は良好であった。また、ICTを積極的に活用する教員も増えており、「分かりやすい授業」と実感できる要因になっていると考えられる。朝の学習についてはまだ実感として教員の取り組みが不十分と感じられることもあり、引き続き改善に努める。進路指導に関しては、新型コロナ対応でHPの活用やオンライン面接など、素早い対応を求められることもあり、計画的に取り組むことが難しかった。また、保護者への情報提供をさらに進めていく。 <生徒指導について> 上高精神に関しては、「きちんとした服装」の実現を目指した。達成されていると捉える生徒の割合は高いが、職員は不十分と捉える割合が高い。このギャップをなくすため、日頃から生徒への意識喚起に努める。部活動では、2か月の休業は痛手であったが、学校再開後に「部活動紹介」「部活動見学 Day」を同日に実施した。今後も感染対策をすすめるながら活性化に取り組む。生徒会委員会活動では昨年に引き続き良い評価となったが、行事が中止・縮小する中で活動の自主的運営を促せなかった部分がある。 <いじめ対策について> 早期発見と情報共有をすすめたが、効果的な対策や指導が十分であったか。今後も全職員で組織的に取り組む。			